

## 令和元年度 第2回大野市総合計画審議会

日時：12月22日(日) 午前10時～午後0時

場所：市役所 大会議室

出席者 大野市総合計画審議会委員 19名(欠席者6名)  
政策局長、総合政策課長、総合政策課員

### 1 開会 会長あいさつ

### 2 報告事項

交代された委員の紹介及び欠席者の報告

### 3 議事

#### (1) 第六次大野市総合計画の策定状況について

事務局より資料1に基づき説明。また、当日配布資料を基にアンケート結果概要、地区別ワークショップの結果概要を説明。

#### 質疑等

委員：アンケート結果について、以前配布された報告書に掲載されているクロス集計だが、定住意向を持っている方と持っていない方の集計はできないか。一方で分析を深めても総合計画策定に結び付けることは難しいので、ポイントを絞って整理をする必要があると思う。

事務局：関連して、中高生向けアンケート結果で危惧される点があった。「将来大野に住み続けたいか」という質問があり、5年ごとの推移をみると、福井県外に住みたいという割合が増えている。高校生を対象にした事業について、来年度以降も引き続き取り組まなければならないと考えている。

会長：アンケート調査結果を精査するなかで気づいた点があれば、後日教えてもらえたらと思う。

委員：高校生と話をする機会があり、高校、大学を卒業した後に大野に帰ってくるかと聞くと、肯定的な意見が返ってこない。生徒にとっては大野は何もない、自分のしたいことが実現できないということだろう。都会に行って生活することで、大企業に就職できる、高い収入が得られる、遊ぶところがたくさんあるといったバラ色の将来が待っているかということ現実はそのようではないと話をするが、生徒たちは実感できない。大野は自然も豊かで生活しやすいということに気づいていない。大野のよさを若者にアピールできないかと思う。高校生の抱く夢と現実にはギャップがあるということ

を伝えられるとよい。

会 長：地元を知るということに率先して取り組まなければならないと思う。地元への誇りについて、大人世代が持っていないから子ども世代が持てるわけがない。大人世代が反省すべきことであり、どう伝えていくかを努力していかなければならない。重点的に取り組む必要がある。

委 員：中高生の考える必要な取り組みについて、安心して子どもを産み、育てるための施策を選んでいる割合が高いが、事務局の考えは。

事務局：テレビをつけても、新聞でも、自分たちの身の回りでも少子化、高齢化について取り上げられていることから、不安感の裏返しではないかと思われる。また、大野市としても手厚く支援しているが、うまく伝わっていない、もしくは対象者しか興味がないのではないかと思われる。

委 員：アンケート結果から市民、中高生ともに安心して子どもを産み、育てるための施策が重要という結果が見て取れるが、もっと具体的なことを言っているのでは。大野には産科がないため福井市へ行く。交通アクセスは良くなっているが、地元で安心して子どもが産める産科医院が欲しいということだと思う。また、小児科について、大野の場合は内科で小児科も診ているが、子育て真最中の親は子どもが病気になったとき、勝山市の小児科医院に行くことが多い。アンケート結果の分析に当たっては市の施策支援が手厚いかどうかではなく、このような具体的なことをイメージすべき。

委 員：アンケート結果を見ると、大野は自然が多いという意識が高い。豊富な自然を生かして何か活気の出ることができないか。長野県や山梨県では自然を生かして果物を栽培している。大野でも果物の栽培も研究すべきでは。何をすべきかを落ち着いて考えるべき。

委 員：人口減少対策を基本の柱に持ってきて、中高生などこれからの大野を担っていく世代が必要と感じていることを一つずつ解決していくことに取り組んでいけば、人口減少の問題も解決できるのではないかと思う。

委 員：来年3月の越美北線のダイヤ改正により、九頭竜湖駅の始発が早くなった。高校生や親御さんは大変な生活が強いられる。ダイヤ改正について、大野市からJRに不便にならないよう意見を伝えているのか。

事務局：担当課にて、JRと協議をしている。福井市へ通う高校生の家庭、通勤面も考慮して改正案ができていると思っている。

## （２）第六次大野市総合計画基本構想将来像（案）について

事務局より、①総合計画の計画期間を10年としたいこと、②幹事会から提案された将来像（案）について説明。

### ①期間を10年にするについての質疑等

委 員：10年は長い。一刻一刻変わっていく時代に10年間見直さないのはおか

しいのでは。

事務局：幹事会での議論の中でも、状況が激変する社会において、10年という期間は長いのではないかという意見があった。目指す方向として、市長も就任当時からSDGsという考え方を取り込んでいきたいと申し上げており、このSDGsの目標年が10年後の2030年となっている。また、総合計画とは別途に総合戦略という5年スパンの計画があり、期間を合わせたいと考えている。これらを踏まえて計画期間を10年として考えたいということに落ち着いた。福井県では更に長期にわたる20年の構想を検討している。

会 長：私個人の意見としても長いと感じているが、柔軟に考えて、その都度改定していくということを説明しておくべきだと思う。このようなことは総合計画に記載することは可能か。

事務局：一つの目安となるのは5年。総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成され、将来像と基本的な方向性を定める「基本構想」は10年、長いものだと12年といった期間のものもある。一方で「基本計画」については期間を前期・後期や、前期・中期・後期に分けられることがある。基本計画を5年間の前期・後期とし、この見直しの際に、将来像や基本的な方向性を見直すことは十分可能だと思う。

委 員：5年ごとに一度立ち止まって見直そう、考え直そうということであれば計画期間を10年としてもいいのかなと思う。

会 長：第六次大野市総合計画の計画期間を10年とすることについて、承認いただけるか。

⇒承認。

## ②幹事会から提案された将来像（案）についての質疑等

会 長：示された2案を基に決定したい。幹事会委員を兼ねている方から意見、案の説明についての補足をいただきたい。

委 員：幹事会において案1・2をまとめる段階でも活発に議論いただいた。案2について、福祉のグループでは、今ある資源、今いる人たちを有効に使っていかなければならないという意見もあり、「結」という言葉を入れたいと話していた。また、語呂がいい方が覚えやすいという意見もあった。読点を付けるかどうかの議論もあった。案1については、つながっていく社会を作る、住み続けるという点を前面に出したもの。これら2つの案は多くの議論の末、まとめられたもの。審議会にて忌憚のないご意見をいただきたい。

委 員：案2については具体性がないように思う。案1の方が見るだけでよく分かる。人口減少対策について考えた場合、10年後も「住み続けたいまち」になればいいと思う。

会 長：他の委員からも意見をいただきたい。

委 員：案1に賛同する。大野に企業が来てくれることは当たり前のことではない。大野は人の住むまち。住みやすいまちをつくる。大野に住んでいながら働く場所に通えるようにする。そのためには通勤網の充実が必要。越美北線の乗客が少なくなっているのを皆さん乗ってください、では誰も乗らない。高校生、通勤者がいない。北陸本線は第三セクターが運行するようになるが越美北線はそうではない。交通網が充実していれば住みながら通うことができる。自然がよく、大野で住みたいと思ってもらえるようにしなければならない。企業を誘致するにしても、働く人がいるかが問題であり、働く人がいないところには進出しない。一度に多くのことを進めるのではなく、まずは大野は住みやすい場所であるということを進めていくべき。人が住めば色々なことに発展する。

会 長：案1にも結のイメージが入っているように思う。皆さんも忌憚のないご意見をお願いしたい。公募委員からも意見を伺いたい。

委 員：中学生と高校生の子どもがいる。子どもに大野は住む環境がよい、山がきれいと言ってもなかなか響かない。都会へのあこがれがすごく強い。一度外に出ていろいろなことを経験して、感じることをすごく大事だと考えている。いろいろなことを経験して、大野をもっとこうしていきたいということを持って帰ってきてほしい。案1の「人がつながり地域がつながる」についてだが、一度出た人が帰ってきたいと思えるのは、つながっている人がいるからこそなのだと思う。案1はこの点で具体的であり分かりやすいと思う。

委 員：案1の方がじっくりくると思う。どこのまちでも通用するような将来像だが、「つながる」という言葉から「結」が含まれると思うし、いろいろな思いが込められている将来像だと思う。

委 員：キャッチフレーズとして分かりやすいのは案2だと思うが、文章の意味として分かりやすいのは案1だと思う。「住み続けたいまち」というワードについて、幹事会の議論の中で「住み続けられるまち」というものもあったが、今住んでいる人たちに向けられているように考えられるので「住み続けたい」としてはどうかといった議論があった。

会 長：他の方にも意見をいただきたい。

委 員：案1でいいと思うが、「住み続けたい」のは大野市に、ということであることから、「住み続けたい結のまち」としてはどうかと思う。

会 長：結を加えることで違和感もないし、大野市の特徴が強まると思う。案1が良いという意見が多いが、「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」とすることに承認いただけるか。

⇒拍手をもって承認。

### (3) 第六次大野市総合計画基本構想の構成と基本目標の分野(案)について

事務局より資料3に基づき説明。

会 長：示された案についてご意見をいただきたい。

委 員：「生涯学習」が入っていないが、『地域づくり』の分野に含まれると思う。

この分野の中に「地域づくり」という文言が入っているので、「人づくり」などといった名称にして、ここに生涯学習を位置付ければよいのでは。

事務局：幹事会では『地域づくり』分野を『結づくり』として提案していたが、イメージしにくいという意見があり、『地域づくり』とした。事務局としても、生涯学習についてはこの分野に位置づけられたらと考えている。石田委員から提案いただいたとおり『地域づくり』分野の中に記載のある「地域づくり」を「人づくり」に変更しても問題ないとする。

委 員：事務局提案のとおりでよいと思う。

委 員：イメージ図について、5つの分野を五角形にし、真ん中に「結」を置いて、それぞれをつなげるとよいのでは。また、地域力が減退していることを考えると、「地域づくり」も一つの大きな柱として捉え、これも含めて「結」でつなぐとよいと思う。

事務局：これから総合計画を説明していくイメージとなるものなので、修正したい。

委 員：イメージ図はすごく大事だと考える。行政が下支えしているということが分かりにくいので、それが分かりやすいよう表現できるとよい。

会 長：Society5.0などといった言葉が2030年まで使われる言葉だと考えられるので、これらを意識しているということが分かるようにしてもらえるとよい。

会 長：人口減少対策が重要ということだが、人口についての記載は、別に策定している人口ビジョンに合わせる必要があると思う。事務局の考えは。

事務局：第五次総合計画では目標人口を設定していたが、現在の法律では目標人口の設定は義務ではなくなった。人口減少対策に特化した「総合戦略」という計画があり、併せて人口の見通しを示す「人口ビジョン」というものを作っている。現在の総合戦略は第五次総合計画後期基本計画に沿って作られている。この総合戦略が今年度で期間が終わるが、総合計画の期間と整合性を取るために、1年延長したいと考えている。人口の見通しについて、次の総合計画と総合戦略とで整合性をとる必要があることから、従来は総合計画に設定していた人口の見通しについては、総合計画の中ではなく、人口減少対策に特化した総合戦略にしっかり表していきたいと考えている。

会 長：委員の皆様には2つの計画の整合性を取るという意味からもご理解をお願いしたい。

委 員：それぞれの計画の位置づけについて、分かりやすく示されるとよいと思う。

委 員：大野市は昨年、一昨年と出生数が200人を切っている。福井県全体でも

少子化が進んでおり、中でも奥越で進んでいる。10年後には福井県全体の中学3年生の数が1,000人減るということで、県立高校のあり方が問題になっている。奥越は高校が3校あるが、人口から見て1校でよいのではとされているが、絶対だめだ、3校とも残さなければならないと思っている。高校に特徴を持たせて他の地域から生徒が来てくれることや、1クラス当たりの人数を少なくして運営することも考えていかなければならない。私立高校の無償化が始まると、私立高校へ進学する生徒が更に増えることも考えられる。少子化に伴う県立高校の見直しが10年、奥越ではもっと早くあるかもしれない。

#### (4) その他

事務局：次回の審議会を2月下旬に予定している。改めて連絡させていただく。次回は本日審議いただいた6つの分野の内容について審議いただきたいと考えている。

## 4 閉会 副会長あいさつ

### 【会議資料】

- ・資料1：第六次大野市総合計画の策定状況（令和元年度12月現在）
- ・資料2：幹事会から提案のあった将来像（案）
- ・資料3：基本目標の分野（案）について
- ・大野市総合計画審議会委員名簿
- ・第六次大野市総合計画策定幹事会委員名簿
- ・アンケート結果概要
- ・地区別ワークショップ満足度集計
- ・幹事会で挙げた「目指す方向性」、「ありたいまちの姿」